

平成28年度加茂川総合内水対策協議会 議事録

◆日時：平成28年11月21日（月）10:00～10:47

◆場所：美濃加茂市役所本庁舎3階第一議会委員会室

◆出席者：市）美濃加茂市長 藤井浩人

美濃加茂市総務部長 酒向洋、美濃加茂市建設水道部長 池田正幸

町）坂祝町長 南山宗之

坂祝町総務課長 吉田勇彦、坂祝町産業建設課長 小関昇

国）木曾川上流河川事務所長 大澤健治、

木曾川上流河川事務所副所長 戸谷三知郎

県）岐阜県県土整備部次長兼河川課長 三戸雅文

可茂土木事務所長 船坂徳彦

民）（美濃加茂市）深田一自治会長 小藤信之

（坂祝町）酒倉連合自治会長 兼松政則

協議事項：対策の実施状況報告

国（木曾川上流河川事務所）県（可茂土木事務所）市（美濃加茂市都市計画課）町（坂祝町産業建設課）がそれぞれ実施している事業について説明した。

上記協議事項に対する内容について委員から次のような意見や質問が出た（発言順）。

【深田一自治会長 小藤氏】

・坂祝町と国土交通省より加茂川流域と木曾川流域の竹林伐採の件について、現在多くの竹が生えており、排水機場運転に大きな支障となる恐れがあるということで、伐採・処理を行うと説明があったが、どのくらいのレベルで伐採されるのか。竹の根から取り除くのか、生えている部分を取り除くのか、どのように行うのか。

【坂祝町】

・加茂川流域の該当箇所は、ほとんどが民有林であり実際どの程度まで伐採が出来るか今のところ目途が立っていません。現在は河川敷について清掃活動や竹林の伐採をしている。今後は地域の皆様や地権者と協議して進めていきたい。

【木曾川上流河川事務所】

・木曾川の河道の中は竹というより木がたくさん生えている。どう伐開するかはそれぞれの場所によって検討し、予算の範囲内で伐開を進めていくことが基本であり、木曾川ではこれから検討していきたい。しかしながら一般的に一回伐開処理を行った後、すぐ繁茂してきてしまうと効率が悪いので、再び繁茂することが起こりにくいように、作業前から考えて実施したい。

【酒倉連合自治会長 兼松氏】

・加茂川流域においては、既に竹林の伐開が行われてすっきりした箇所があるが、手つかずの場

所もある。竹林の伐採は民有林ということもあり手つかずと説明があったが、民有林でありながら竹林の伐採が進んでいる箇所や土手の造成が完了しているところもある。何か個別に計画をもって実行されているのか。

【坂祝町】

・今例示された場所は、坂祝町内にある加茂川の2本の橋のうち、下手の橋の付近だと思われ、そこには所有者が自発的にきれいにされた土地が一部ある。

【坂祝町産業建設課長 小関氏】

・計画としては、土地所有者と協議の上、岐阜県の森林環境税を使いながら伐採を進めていくことを検討したが、岐阜県の森林環境税は山に繋がっていない場所は導入ができないことになってきた。それ以外の手法も検討して実施していきたい。

【美濃加茂市長 藤井氏】

・当市では民有林で竹を伐開した場合、処理として竹チップや粉末にする機械を購入し、何台か持っている。市内に限らず坂祝町の皆様とも協力して実施したい。

【坂祝町長 南山氏】

・坂祝町内も竹林が大変な問題であり、竹チップ等に加工する等しているが、根から取っていないため、筍が生えてくる。そのため、翌年から地元自治会に管理を任せ、筍が生えてきたらその都度取り除いてもらうといった処理をお願いしてはいるものの、そこを手入れする時間がないようで、割り当てた地元自治会も管理が出来ていない状況である。

木曾川の河川敷を私も含めた町職員等で伐採をしているが、竹の勢いに人間が負けており、毎年何メートルも進まない現状である。竹は根から取らない限り再び大きい竹が生えてしまうため、どこかの機会に根から取って生えてこないようにしないといけないと思っており、なかなか管理が難しいという印象である。管理や伐開がどこまでできるかというのを、森林環境税も使えるところは使って実施していきたい。

【坂祝町長 南山氏】

・国土交通省のアクションプログラム（1／8）にある加茂川排水機場のポンプが、増設されて5基になり内水が1.5倍の力で排水できるので本当に安全になったと感じる。今年度増設が完了するので一安心であるとともに、国土交通省には予算も付けていただき感謝の気持ちでいっぱいである。

この排水機の図を見ると汲み上げた水を一旦吐出水槽へ排水し、その後自然に木曾川へ排水する仕組みとなっている。そのため水槽より木曾川の水位が低いときは自然に流れていくことが予測されるが、吐出水槽より木曾川の水位が上がり堤防を越えるか超えないかとなったときは、吐出水槽へいくら排出しても、サイフォンの原理で木曾川へは水が排出されないことが予測され、加茂川の水位は下がらないことが起こりうると思われる。

最終的な内水対策は、やはり木曾川の水位を下げることである。それには新丸山ダムが完成しないと水位の調整ができないため、本内水対策の最終目標は新丸山ダム完成である。一旦はポンプが増設され地元として、安心したいところであるが、まだまだ内水の洪水の恐れは実際には残

っており、増設された現状でハザードマップをつくると、ポンプ増設前よりも水位が70cm水位は下がる予想となるが、完全に内水がでないというわけではなく、災害はまだまだ起こりうるという共通認識を持って我々も引き続き努力していかないといけない。

【木曾川上流河川事務所長 大澤氏】

・昔は吐出水槽は無く、排水機場と川を直接結ぶ構造もあったが、この構造では川が振動したりするとその圧力がポンプ場に直接伝わり、危険な状態となりえるため、現在は吐出水槽を設け、振動による圧力を緩和することが、現在の国土交通省での必須の基準となっている。

御心配されるお気持ちもわかるが、計画の水位であればこの構造のポンプで排出ができることになっている。ただ、堤防を越えた場合は、いくらポンプ場があっても意味が無いため、そういった意味では上流にダムができて堤防を越えさせないことは基本となる。木曾川上流河川事務所としても新丸山ダムの完成を後押しするようにしたい。

【酒倉連合自治会長 兼松氏】

・身近な話題として坂祝町のアクションプログラム（8/11）にある貯留浸透施設の整備の制度があるようだが、はっきり言ってこの施設を見たことがない。これを全域に行き渡ればかなりの効果があると書いてあるが、実際はどのようにして推進しているか、また助成金は2万円とあるが、実際費用はどのくらいかかるのか。

【坂祝町】

・地域の方へのお知らせは広報を通じて年2回程度行っている。また町民祭りの展示ブースでも紹介しており、今後も広く周知を図りたい。

雨水の貯留タンクは、ホームセンターで市販されているものもあり、値段の差はあるが2万円程度からキットは販売しているので購入していただき、個人でも手軽に設置できる。補助は2万円もしくは2分の1の安い方として補助金を交付している。

浸透ますは、家を建てられるときに多くは設置されるようで、費用は穴を掘る工事もあるため、いくらかかるかは大まかに申し上げられないが、製品自体はさほど既存のますに対して高価ではないと聞いている。

【美濃加茂市】

・美濃加茂市においてもこれらの貯留施設、浸透施設の個人への補助事業の助成制度を持っており、ホームページや広報を通じて制度利用、施設設置をお願いしているところである。

既存の浄化槽を下水道に接続、切り替える際に浄化槽を雨水貯留施設に切り替えてほしいと依頼はしているが、上限8万円で個人負担の半額を補助すること、ホームセンターで購入する簡易なものは材料費の半額までとしており、個人負担が生じること等で、個人の方が踏み込んでこの事業を実施していただけていないと思われる。この制度自体は今後もPRしていこうと思っている。

浄化槽からの切り替えについても、下水道がほとんどの家庭で接続されており、新しく浄化槽から下水道へ変えるタイミングと制度推進とのスピード感がずれている。既に下水道へ切り変えられる方は切り替え済であるため進捗状況が思ったより遅い、制度利用数が少ないというのが現状である。

【美濃加茂市長 藤井氏】

・この地域は加茂川内水対策にしっかりと関係各位の力をいただいて取り組んでいくのは当然ではありますが、木曾川の水位によっても内水対策が大きく左右されるため、先ほど南山坂祝町長からも提案がありました、新丸山ダムについて国土交通省、岐阜県にお力添えをいただいて、引き続き順調に工事が進んでいくようお願いします。また住民の皆さんにも新丸山ダム建設に対するご理解をいただくとともに、時には工事現場へも一緒に視察を行い新丸山ダムへの理解を深めていきたいと思っています。

また、重ねてではありますが国土交通省の皆様にはポンプ等につきまして、岐阜県の皆様には河川改修、浚渫等に変にお力添えをいただいていますので、我々市町も引き続き地元住民の皆様と一丸になって頑張っていきますので、どうか今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。